2021 年度より入局させていただきました、堀込瑛介と申します。
この場をお借りして自己紹介させていただきます。よろしくお願い申し上げます。

出身は伊勢崎市境でございます。皆様おなじみ原病院(編集部加筆:群馬大学腫瘍放射線学教室は原病院と大変懇意にしていただいております)がございます。幼少期は原病院の近所にある古墳の雑木林(現在の境御嶽山自然の森公園)でカブトムシやクワガタを採集しておりました。地元の小中学校を卒業し前橋高校へ、高校卒業後は浪人生活 1 年を経て群馬大学医学部へ進学しました。

大学ではバスケサークルで活動する傍ら、チューター教授の西山正彦先生の研究室(病態腫瘍薬理学)で研究のお手伝いをさせていただきました。それが私の腫瘍学との出会いでした。研究室に通うにつれて臨床においても腫瘍と関連した診療科に携わりたいと考えるようになりました。生まれも育ちも群馬で井の中の蛙のような私のために、西山先生は国立がん研究センター中央病院腫瘍内科(旧 乳腺・腫瘍内科)での 2 泊 3 日の実習を企画してくださったり、各種学会で私の研究発表の機会を設け、そこで西山先生のお弟子様のお話を伺う機会も設けてくださりました。こうした経験から第一線で活躍する Oncologist を知り、将来何がしたいかと考えた結果、大学卒業時には腫瘍内科医を目指しておりました。

大学卒業後は群大病院で初期研修を行いました。研修医 1 年目では主に腫瘍に関連した診療科で研修し、放射線科でもお世話になりました。放射線科では臨床だけでなく研究にも尽力される先生方の熱意やその熱意のままに研究に精進できるだけの充実した研究設備などの環境、その熱意を後世へ伝える教育体制を拝見し、1 年目終了時には入局先候補に放射線科も加わりました。その後進路について大変悩みましたが、最終的には 10~20 年後にその診療科の専門医として何がしたいかと考えた時に、姑息的治療・緩和治療だけでなく根治治療にも携わりたいと思い、重粒子線治療などで根治を目指した治療を行える一方で、骨転移病変による疼痛の緩和目的の照射も行うことができる放射線治療科医の道を選択しました。

入局 1 年目は高崎総合医療センターで勤務しております。近年の紹介患者数増加傾向により想像以上に過酷な環境で、かつ自身の無力さを知り猛省する日々でございます。しかし、こうした環境で勤務した結果、成長しないなんてことはないと思わせるくらい自身を成長させる経験に満ちた環境で、充実した日々を過ごさせていただいております。

至らないところがありご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、日々精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

2021 年 7 月 25 日
入局 1 年目 堀込瑛介